

# 段ノ塚穴型石室に関する若干の考察

考古班（徳島考古学研究グループ）

岡山真知子<sup>\*1</sup> 中川 尚<sup>\*2</sup>

**要旨：**美馬市美馬町には、国史跡段ノ塚穴をはじめとして多くの横穴式石室をもつ古墳が築造されている。この石室は、段ノ塚穴に代表されるように穹窿状の天井構造に隅丸ないしは太鼓張状の平面プランをもつ石室で、段ノ塚穴型石室と呼ぶ。この段ノ塚穴型石室が美馬市美馬町を中心に旧美馬郡内（美馬市・つるぎ町）に32基分布している。この石室の分布図作成と類例を調査し、その起源等について若干の考察を加えたい。

**キーワード：**段ノ塚穴型石室、海原古墳、肥後型石室、岩橋千塚

## 1. 段ノ塚穴型石室とは

美馬町周辺には、段ノ塚穴と同じ方式で築造された古墳が数多く分布している。これを段ノ塚穴型石室と呼ぶ（天羽1973）。つまり、太鼓張りまたは末広りの平面プランに天井石を斜めに持ち送り、いわゆる穹窿式の天井を構成するという特徴を持つ。これは、より高く、より広い空間を得るためにとられた構築技法である。この段ノ塚穴型石室は、徳島県内はもちろん他に例をみない。類例としては、結晶片岩という同じ石材を使う和歌山県紀ノ川流域の岩橋千塚（末永1967）や九州の肥後型石室（柳沢1980・古城2007）などにみられる。より高い空間を得ようという発想は同じだが、天井石を持ち送るといった構築技法はどこにもみられない。そこで、この段ノ塚穴型石室の起源等について考えてみたい。

## 2. 段ノ塚穴型石室の分布

段ノ塚穴型石室は、旧美馬郡を中心に現在32基確認されている。東は阿波市阿波町の北岡東古墳、西は美馬市美馬町の大国魂古墳である。その分布から大きく4つのグループに分けることができる。吉野

川北岸の東のグループ、西のグループ、南岸の東のグループ、西のグループである。またそれらは9つの古墳群に細分できる。

古墳の造営時期は、古墳時代後期、須恵器による年代ではTK43から209にかけての造営である。石棚を構築するものが8基あり、特徴の一つとなっている。四国最大級の規模を有する段ノ塚穴太鼓塚、扉石・石棚および石障を意図した仕切石をもつ海原古墳、玄門部床の敷居石をもつ野村八幡神社古墳・阿波町北岡西古墳など、細部の変化に富む。

この中で、大国魂古墳は玄室奥壁幅1に対して玄室長1の胴張り正方形平面、狭小な羨道をもつ、段ノ塚穴型石室の初現形と考えられ、横穴式石室の6世紀中葉の導入の可能性を残す例である。玄室比1:1で同様の形態を採る平野古墳・八幡3号墳・穴吹町三島2・3号墳は石室全長5.6m未満と小規模ではあるが、これらもまた先行形態とみなすことができる。

太鼓塚にみられる玄室の胴張り、末広りは段ノ塚穴型石室の典型であるが、6世紀後半から7世紀前半にかけて胴張りの退化する真鍋塚古墳・段ノ塚穴棚塚、胴張りの消滅、狭長石室となる貞光町江の

\*1 徳島県立鳥居記念博物館 \*2 徳島県立脇町高等学校教諭

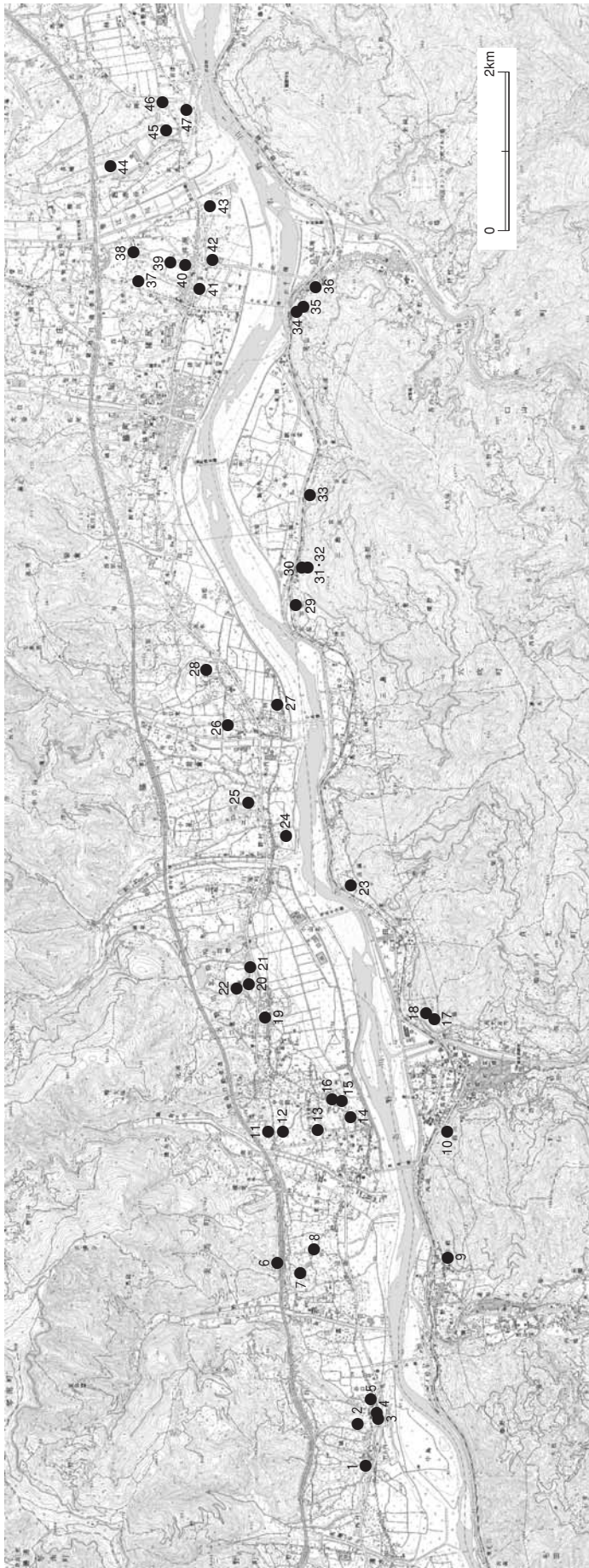


図1 段ノ塚穴型石室及び美馬郡の古墳分布 (国土地理院5万分の1『川島』『脇町』を基図として作成, 番号は表1に対応)

表1 段ノ塚穴型石室及び美馬郡の古墳一覧 (番号は図1に対応)

No	名称	所在地	有無	特徴	No	名称	所在地	有無	特徴
1	天神原古墳	美馬市美馬町			17	高枝古墳	美馬市真光町高枝		
2	大園端古墳	美馬市美馬町	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	18	真鍋塚古墳	美馬市美馬町	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
3	八幡2号墳	美馬市美馬町八幡	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	19	江ノ脇古墳	美馬市つるぎ町江ノ脇	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
4	八幡1号墳	美馬市美馬町八幡	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	20	棚塚古墳	美馬市美馬町坊僧368	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
5	八幡3号墳	美馬市美馬町八幡	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	21	太鼓塚古墳	美馬市美馬町坊僧373, 374, 363-2	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
6	平野古墳	美馬市美馬町平野	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	22	七八塚古墳	美馬市美馬町坊僧	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
7	海原古墳	美馬市美馬町西荒川86	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	23	道万塚古墳	美馬市真光町道綱100番地	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
8	荒川古墳	美馬市美馬町荒川	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	24	野村古墳	美馬市脇町岩倉宮の下	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
49	荒川遺跡1号墳	美馬市美馬町荒川	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	25	野村八幡古墳	美馬市脇町岩倉宮の下4144	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
50	荒川遺跡2号墳	美馬市美馬町荒川	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	26	岩倉1号墳	美馬市脇町岩倉	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
9	富士権現古墳	美馬市つるぎ町小野天神	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	27	岩倉2号墳	美馬市脇町岩倉	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
10	西山古墳	美馬市つるぎ町西山	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	28	国中古墳	美馬市脇町岩倉國中280502	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
11	纏掛古墳	美馬市美馬町	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	29	遊佐古墳	美馬市穴吹町遊佐	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
12	井川塚古墳	美馬市美馬町	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	30	三島1号墳	美馬市穴吹町三島	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
13	小塚古墳	美馬市美馬町	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	31	三島2号墳	美馬市穴吹町三島	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
14	姫塚古墳	美馬市美馬町	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室	32	三島3号墳	美馬市穴吹町三島	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
15	願勝寺1号墳	美馬市美馬町	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室					
16	七人塚古墳	美馬市美馬町	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室					
					33	三谷古墳	美馬市穴吹町三谷	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
					34	尾山古墳	美馬市穴吹町尾山	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
					35	戒1号墳	美馬市穴吹町字戒55	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
					36	戒2号墳	美馬市穴吹町字戒	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
					37	北原古墳	美馬市脇町江原押原466	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
					38	古墳 (名称無)			
					39	古墳 (名称無)			
					40	押中古墳	美馬市脇町江原押原1081	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
					41	古墳 (名称無)			
					42	押東古墳	美馬市脇町江原押原247302	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
					43	押原南古墳	美馬市脇町江原押原	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
					44	長峰古墳	阿波市阿波町字長峰	?	
					45	北岡西古墳	阿波市阿波町字北岡74の2	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
					46	北岡東古墳	阿波市阿波町字北岡115の2	墳丘・石室	段ノ塚穴型石室
					47	西林古墳	阿波市阿波町字西林	半壊	段ノ塚穴型石室
					48	享保寺山石棺群	美馬市穴吹町尾山	墳丘・石室	石棺、直刀・馬具・朱など出土

脇古墳への変化がみられる。

### 3. 段ノ塚穴型石室の類例

段ノ塚穴型石室の構築時期を考えて、横穴式石室の導入期の特徴ある石室ではなく、6世紀後半以降の横穴式石室の特徴と比較する。

#### 1) 九州系横穴式石室

よく似ていると言われる肥後型横穴式石室は、長方形平面の玄室中央に短い羨道が取り付けられ、玄室の壁面はドーム状の持ち送り構造で、天井石は一枚ないし二枚で構成されている。5世紀の初頭に出現し、6世紀前半までは玄室下部の四壁に沿って板石で構成された石障をめぐらせるのが特徴である。

筑後地方ではさらに胴張り構造の横穴式石室が出現する。単室と複室があるが、石室をより高く、広い空間を確保するために丸味を持たせたものと考えられている。これら胴張り構造の石室は6世紀中頃に出現し、7世紀にかけて盛行し、筑後川流域のみならず遠く関東の地にも分布している。胴張り石室は、佐田茂(1993)が指摘するように扁平な板石(片岩)を小口積みして、高く、広い石室を確保するためのプラン構造を持つようになった石室である。

#### 2) 近畿地方の在地型横穴式石室

近畿地方の在地型横穴式石室として太田(2007)では6つのタイプが提示されているが、ここでは徳島県内に見られる畿内型と段ノ塚穴型石室と関連の深いタイプに限定して紹介する。

##### ①畿内型石室

玄室と羨道からなり、玄門部は内側へ突出しない。また、羨門部に隗石を積み上げて閉塞を行うという特徴がある(森下1986)。支配者層の墳墓から群集墳にいたるまで、広い階層で採用されており、規模や副葬品組成などで階層性がみられる。

##### ②岩橋型横穴式石室

玄室と羨道からなり、玄門部には、玄室前道とよばれる空間が設けられている。玄室前道には、通廓部基石が設置され、この石の上部に内側へ突出する玄門を設けている。当該横穴式石室は紀ノ川南岸を中心に分布する。

内側へ突出する玄門構造、隗石の存在、板石閉塞、開かれた棺の採用など九州地方の横穴式石室と共通

する要素を多く持っている一方で、片袖形から両袖形へと変遷する点などは畿内型石室と似た特徴も有している(森下1992)。また、石材を終始板石による小口積、もしくは平積する点や、通廓部基石とよばれる仕切石の上に玄門を構築する点などは、畿内型石室にも九州地方の横穴式石室にもみられない岩橋型横穴式石室独自の特徴である。

#### ③有段式(有階式)石室

玄室と前底部もしくは羨道からなり、玄門部に段を有する横穴式石室である。近江地域の琵琶湖東岸から伊勢地域北部に分布する(堀2005)。起源は九州地方の横穴式石室にあると想定できるが、在地の変容が著しく、近畿地方における在地型横穴式石室として確立している。

#### ④段ノ塚穴型横穴式石室

玄室と羨道からなり、玄門部に内側へ突出する立柱石を有する。玄室は、胴張りで玄門部へ向かって幅を減じる平面形であり、天井部は穹窿状に持ち送っている(天羽1973, 蔵本1996)。阿波西部に分布の中心があり、近畿地方周辺部の在地型横穴式石室の一類型である。在地的な変容が著しく、近畿地方周辺部における在地型横穴式石室として確立している。

#### 3) 関東地方での後期後半以降の石室動向

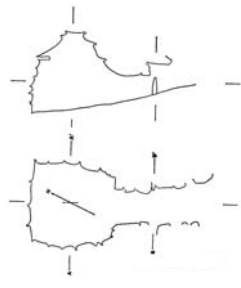
北武蔵を中心に6世紀後半以降、胴張り複室構造を呈する横穴式石室が出現する。このような複室構造を呈し、胴張りプランを志向するという両方の要素を併せもつ横穴式石室の展開状況からは北部九州との類似性(上野2000, 田村2001)、あるいは東海地方との関係性(池上1980)が指摘される。

### 4. 段ノ塚穴型石室の出自と展開

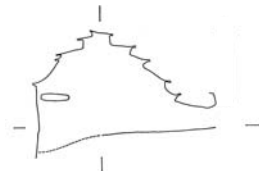
以上、親縁関係にあると考えられる横穴式石室の特徴についてみてきた。共通性を探ってみると、穹窿式天井という特徴は肥後型石室や岩橋型横穴式石室で認められるが、天井石は1~2枚で構成する例が多く、この点は大きな相違点である。

次に平面プランであるが、肥後型石室は方形プランが特徴でもある。これは、段ノ塚穴型石室の初現と考えられる大國魂古墳がこのタイプである。また、段ノ塚穴型石室かどうかは不明であるが、願勝寺1号墳はT字形横穴式石室で(石丸1969)、このタイ

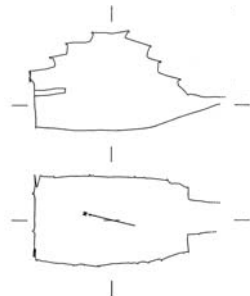
6 C 中葉



大國魂古墳



荒川古墳



八幡1号墳



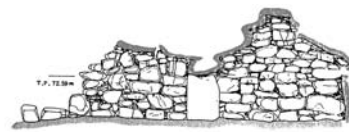
三島2号墳



北岡東古墳



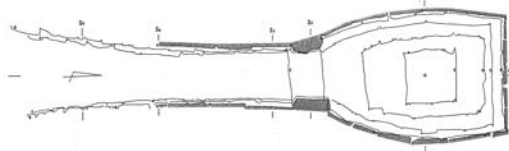
段ノ塚穴 太鼓塚



野村八幡古墳



北岡西古墳

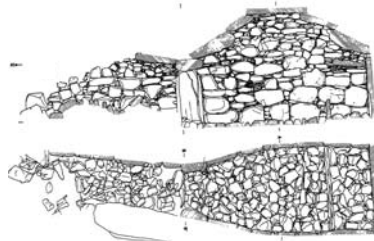


三島1号墳

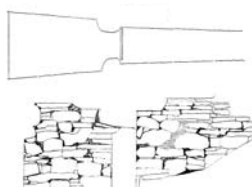
7 C



段ノ塚穴 棚塚



海原古墳



江ノ脇古墳



戎古墳



図2 段ノ塚穴型石室編年試案

プは岩橋型石室に多く認められる(高木1993)。

大国魂古墳は天井構造も近く、肥後地域から入ってきた石室が、この地域の中でさらに天井を高くする構築技法に進化し、平面プランも長方形の胴張り形がミックスされたとも考えられる。

肥後型の特徴でもある石障(石柵)も8基に見られる。また、羨道から一段下がる玄室構造は海原古墳(岡山・大塚1988)で確認されており、これも共通する。発展期に見られる胴張りの平面プランは、筑後地方からの流入の可能性もある。

太田(2007)で、九州系横穴式石室の他地域への伝播のあり方について定着型・一元型・二元型・間接型の4つのモデルが提示されている。この中の定着型は、九州地方から、伝播した横穴式石室が伝播した先で定着して構造が変化し、やがて伝播した先で九州とは異なる独自の形態に変遷し定着するモデルである。

近畿地方周辺にある段ノ塚穴型石室や有段式(有階式)石室は定着型の結果、成立した石室型式といえる。一方で、複室構造の石室においては、間接型の伝播が想定できる。

## 5. まとめ

徳島県内では、横穴式石室の分類を進めていくと、律令期の各郡単位にまとめられる。これは石材の相違もあるが、墓制に対する考え方の差が出てると考えられる。つまり、墓は氏族集団によってその差がみられるものであり、墓の差違は、氏族集団の差違とも考えられる。また、氏族間の結びつきや大和朝廷との関係の差によっても異なると考えられる。

古くから、この横穴式石室の違いから阿波三国説が唱えられてきた。つまり、律令にみられる粟・長の国以外に美馬郡周辺に一つの国があったのではないかという考え方である。段ノ塚穴はまさに国王の墓にふさわしく、その壮大さからも国の存在を考えざるを得ないというのである。

残念なことに、美馬町周辺、ひいては美馬郡周辺のことを古代の記録にほとんど登場しない。登場しないことに意味があるのかもしれないが、東に隣接する麻植郡とは大きな差がある。麻植郡は阿波忌部氏の本拠地ということもあってたびたび登場する。

横穴式石室では、規模、築造数などから美馬郡の方がはるかに凌駕する質と量をもっている。しかし、麻植郡の石室はちょうど吉野川下流域の石室と段ノ塚穴石室の中間的形態を示している。麻植郡の石室と兄弟関係といってもいいほどである。

段ノ塚穴型石室は、大和朝廷とはあまり関係のない一つの氏族集団の墓と捉えるべきであろう。しかもかなりの強大な勢力を誇り、そして徳島県最古の寺院郡里廃寺を現出させたのである。

## 文献

- 穴吹町誌編さん委員会(1987):『穴吹町誌』。
- 天羽利夫(1973):「徳島県下における横穴式石室の一樣相」『徳島県博物館紀要』第4集。
- 天羽利夫(1977):「徳島県下における横穴式石室の一樣相—その2—」『徳島県博物館紀要』第8集。
- 池上 悟(1980):「東国における胴張り石室の樣相」『立正史学』第47号。
- 石丸 洋(1969):「徳島県美馬郡願勝寺1号墳」『古代学研究』第56号。
- 上野恵司(2000):「複室横穴式石室の研究—関東を中心に—」『埼玉考古』第35号。
- 太田宏明(2007):「近畿地方における九州系横穴式石室の変遷と分布について」『日本考古学協会2007年度熊本大会研究発表資料集』。
- 岡山真知子(1989):「古墳時代の美馬町」『美馬町史』。
- 岡山真知子・大塚一志(1988):「海原古墳調査報告」『徳島県博物館紀要』第19集。
- 岡山真知子・大塚一志・中川 尚・三宅良明・福原智子(1998):「穴吹町における後期古墳の研究—三島古墳群を中心に—」『総合学術調査報告穴吹町』阿波学会紀要第45号。
- 蔵本晋司(1996):「段ノ塚穴型石室の基礎的研究I—編年と系譜—」『香川考古』第5号。
- 貞光町史編纂委員会(1965):『貞光町誌』。
- 末永雅雄(1967):『岩橋千塚』関西大学文学部考古学研究室。
- 高木恭二(1993):「横穴式石室の地域性」『季刊考古学』第45号。
- 田村 悟(2001):「北部九州の後期古墳概観」『東海の後期古墳を考える』第8回フォーラム。
- 中川 尚(1998):「吉野川流域における横穴式石室の変遷」『川と人間』溪水社。
- 古城史雄(2007):「肥後の横穴式石室について」『日本考古学協会2007年度熊本大会研究発表資料集』。
- 堀 真人(2005):「横穴式石室の伝播の一樣相」『龍谷大学考古学論集I』。
- 森下浩行(1986):「日本における横穴式石室の出現とその系譜—畿内型と九州型—」『古代学研究』第111号。
- 森下浩行(1992):「畿内およびその周辺の横穴式石室考」『考古学と生活文化』。
- 柳沢一男(1980):「肥後型横穴式石室考」『鏡山先生古希記念古文化論集』。